

別添 3

自然環境整備計画の目標の達成状況等の評価

都道府県名		広島県		個別地域名		瀬戸内海国立公園		評価年度	7	年度		
事業実施期間		令和 2 年度～令和 6 年度			事業費	129,686 千円		(うち国費 64,843 千円)				
事業の実施内容		【大聖院獅子岩線道路（歩道）事業】 令和2年度 測量設計業務 水路工、真砂土舗装工、縁石工、丸太土留工、階段工 【紅葉谷公園園地事業】 令和4年度 測量設計業務 【火山登山線道路（歩道）事業】 令和2年度 測量設計業務 土留工、歩道改良工、階段工 【高見山登山線道路（車道）事業】 令和3年度 測量設計業務 擁壁工、落石防止工、法面工 【大浜崎園地事業】 令和3年度 測量設計業務 歩道復旧工、擁壁工 【蛇の池園地事業】 令和2年度 法切工、土留工、水路工、暗渠工、緑化工								令和2年度 蛇の池園地事業		
				施工前				施工後				
事業の実施により、利用者の安全性を確保し、施設の利便性を向上させた。												
目標の達成状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況											
	目標を定量化する指標の達成状況	当初の指標	指 標	単位	定 義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価			
						基準年度	目標年度	達成年度				
			瀬戸内海国立公園利用者	人/年	瀬戸内海国立公園の利用者数	7,088,800	7,160,000	6,447,731	本整備計画で実施した事業箇所については、利用者の安全性の確保や利便性向上に繋がったが、落石による通行止めなどにより、瀬戸内海国立公園全体の利用者数は減少した。			
						H30	R8	R6				
		その他の指標										
整備に伴う取り組みの実施状況		施設の設置から相当の年数が経過していることから、施設の老朽化が進行しており、安全性に問題のある施設が多く、今後計画的な維持管理が求められている。そのため、施設のあり方や長期的な維持管理方針を整理し、計画的な施設整備に向けて取り組んでいる。										
今後の取り組み		・長期的視点な視点を持ち、優先順位を考慮した上で必要な修繕を取り組むと同時に、維持しやすい構造・材質への変更などにより、ランニングコストの縮減を図るとともに有効利用されていない施設については適切なダウンサイジングを行う。また、利用者が多く見込める箇所においては、ニーズに対応した施設整備を行う。 ・毎年頻発する大雨災害により施設が被災し、安全な利用に支障が出ているため、早期復旧を図る。										

記入要領

- ・本様式は、自然環境整備計画作成要領の第5の2の事後の評価を行うための様式である。
- ・本様式は、必要に応じて、欄の拡大、行の追加をする。
- ・本様式は、作成要領第2の1に規定する個別地域毎に作成する。
- ・「事業の実施内容」欄には、実施した事業について、適宜、図表、写真等を活用してわかりやすく記述する。また、整備計画策定時に予定していた事業と実施した事業に大きな変更があった場合は、その変更内容についても記述する。
- ・「整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況」欄には、整備計画策定時に設定した目標に対して、その効果の発現状況が分かるように記述する。
- ・「その他の指標」欄には、整備計画策定時に記載していなかった指標であっても、効果を説明するために適した指標があれば積極的に記述する。
- ・「達成値の評価」欄には、整備計画策定時に記載した「目標と指標及び目標値の関連性」を踏まえて、達成値の評価を記述する。
- ・「整備に伴う取り組みの実施状況」欄については、整備とともに実施された関係機関等の取り組みや継続的な活動、近隣の他事業への波及効果等について記述する。
- ・「今後の取り組み」欄については、目標の達成状況を踏まえ、次期計画への反映方針や地域での関係機関等の取り組み予定等について記述する。